

荒尾干潟の多様な生物

～荒尾干潟に飛来する野鳥～



クロツラヘラサギ

全長約 75cm
 コウノトリ目トキ科
 朝鮮半島で繁殖し、東アジア各国の湿地で越冬する。世界で 2,000 羽前後しか生息しておらず、絶滅が危惧されている。県内では、荒尾干潟をはじめ、白川や緑川の河口域、不知火八代海沿岸、江津湖などに飛来している。



ズグロカモメ

全長約 32cm
 チドリ目カモメ科
 日本では、主に西日本の干潟で越冬する。世界的に絶滅が危惧されており、8,500 羽前後が生息していると推定されている。ユリカモメに似て夏羽は黒い頭部が目立つが、くちばしは黒い。カニ類を好んで捕食する。



シロチドリ

全長約 17cm
 チドリ目チドリ科
 冬鳥として渡来し、干潟、水田に生息する。河川敷や砂浜、海岸の埋立地などで繁殖しているものも見られる。荒尾干潟に飛来する野鳥のうち、唯一繁殖する種であることから「荒尾市の鳥」に選ばれている。



オオソリハシシギ

全長約 41cm
 チドリ目シギ科
 旅鳥として春秋の渡りの時期に干潟などへ渡来する。くちばしは長く上に反っており、背が高く、足が長い大型のシギ。夏羽は頭部から腹部にかけ赤褐色となる。ゴカイやカニを好んで捕食する。

～荒尾干潟に生息する底生生物～



アナジャコ

体長約 10cm
 北海道から九州、朝鮮半島、中国沿岸に分布している。体の成長に合わせて、泥干潟に 2m を超える深い Y 字型の巣穴を掘る。
 有明海では「まじゃく」と呼び、荒尾市では市の特産品となっている。



タイラギ

殻長約 30cm
 大型の二枚貝。日本では房総半島以南に分布し、内湾の砂泥底に殻頂を下にし、海底に刺さるようにして生息する。
 海辺の改変などの環境変化により、有明海では著しく減少している。



チゴガニ

甲幅約 1cm
 甲は平たく四角、眼柄は長い。色は甲が暗緑色、ハサミ脚は白色。干潟に巣穴を掘り、潮が引くと巣穴から出て活動する。活動を休止するときは、巣穴に泥でふたをする。魚類や鳥類の重要な餌となっている。



フサゴカイ

体長約 5～20cm
 海岸や干潟の砂泥質の海底に棲む。頭部にある多数の糸状触手が房状になっている。フサゴカイの仲間は、日本には 50～60 種いると考えられており、ゴカイ類は個体数が多く、干潟に生息する魚類や鳥類の重要な餌となっている。

※写真①②③④: 西村誠氏、写真⑤: 中部地方環境事務所、写真⑥、⑦、⑧: 逸見泰久氏 提供